

ニコラス・チェア／ドミニク・ウィリアムズ著

アウシュヴィッツの巻物

証言資料

『サウルの息子』は第
六八回カンヌ国際映画祭
でグランプリを獲得した
衝撃的作品（二〇一六年
一月公開）であった。ハ
ンガリー出身の新鋭監督
が描いたのは、ユダヤ人
捕虜の部隊ゾンダーコマ
ンド（特別作業班）の過
酷な労働と彼らが起こし
た一九四四年十月、アウ
シュヴィッツIIビルケナ
ウ収容所の蜂起、その挫
折であった。四十数万人
ハンガリー・ユダヤ人は
四四年春から夏にかけソ
連軍が東方からドイツ軍
を撃破しつつ押し寄せて

くるなかで、連行され殺
戮された。映画はこの
「地獄の心臓部」、毒ガス
による大量殺戮の現場で
の特別班員の生きざまを
生々しく衝撃的な映像の
連続で描いた。

だが、この新鋭映画監
督の迫力ある仕事を可能
にしたのは、戦後約七十
年間に収容所敷地内の地
中から発掘・発見された
ゾンダーコマンドの証言
資料や写真であった。そ
れらは世界の歴史研究に
よって判読困難部分が
解明され、文学的心理学
的解釈の積み重ねで内容

が豊かになった。本書は
そうした研究の総合的到
達点を示している。

ユダヤ人ゾンダーコマ
ンドの班員にとって最も
過酷なのは、ガス室への
引立て・閉じ込め、大
量の死体のガス室からの
搬出よりも、クレマトリ
ウム（死体焼却炉）ある
いは焼却坑での作業だっ

貴重極まる発見・解読・歴史再現

広く長く参照されるべき名著

永岑 三千輝

さを確信させた。しか
し、文書証拠を地中に残
し、後世に伝えることに
成功したのは彼らのうち
ごく少数であった。その
貴重極まる発見・解読・
歴史再現が、本書の醍醐
味である。

ゾンダーコマンドは大
量殺戮の物的証拠とし
て、ガス室で殺されたユ
ダヤ人の大量の歯を死体
焼却場の周辺の地中にな
らまいた。そうした行為
も確かに極限状態におけ
る復讐心と抵抗意思の表
現であった。しかしなが
ら、それより幾層倍の精
神的強靱さが必要なのが
極秘手書き文書の作成と
保管であった。インクが

で再認識させてくれる
ものであり、「原文だけ
がもつ力」を持っている
た。彼らを支配するあか
らさまな主要な感情は抑
圧者であるナチに向けら
れた復讐心であった。

「何があっても流れに
押し流されず、自分を見
失ったりしない」人間は
ごく少数であった。「感
で舌も燃えている。この
すべての工程に要する時
間は二十分である」と。

燃え上がる。……最後に
焼けるのは頭部である。
すると瞳孔から二本の細
く、青い炎がちらちら明
滅する。なかの脳みそと
ともに眼球が燃えてい
る。……いまや口のなか
で舌も燃えている。この
すべての工程に要する時
間は二十分である」と。

燃え上がる。……最後に
焼けるのは頭部である。
すると瞳孔から二本の細
く、青い炎がちらちら明
滅する。なかの脳みそと
ともに眼球が燃えてい
る。……いまや口のなか
で舌も燃えている。この
すべての工程に要する時
間は二十分である」と。

とき、はじめてその意味
と重要性の理解が可能に
なる。写真は鮮明ではな
い。しかし証言や写真分
析から、ガス室そばの広
い敷地に積み上げられた
大量の生々しい死体、そ
のあちこちで焼却作業に
携わるゾンダーコマ
ンド、焼却坑から立ち上
る煙が浮かび上がって
くる。煙は二十四時間一
証した。その意味で本書
は広く長く参照されるべ
き名著だ。（二階宗人訳）



A5判・416頁・6400円
みすず書房
978-4-622-08703-8
TEL. 03-3814-0131

たという。敗戦が濃厚に
なると、骨の粉砕、灰の
河川投棄など犯罪の徹底
的な証拠隠滅作業までも
が彼らに強制された。だ
が、ナチが大量殺戮の隠
蔽工作をしようとするこ
とが、かえって、ゾンダ
ーコマンドに殺戮の記録
・証拠を残すことの重要

められた手書き文書は、
収容所解放後すぐに見つ
かったものもあれば、二
十年以上たつて見つかっ
たものもある。当然にも保
存状態は悪く、相当な部
分が判読不可能であっ
た。しかし、解読できた
手書き文書は、「個人の
人格を目に見えるかたち

情を保ち、憎悪し続ける
ための苦闘」を続けたザ
ルマン・グラードフスキ
（第二章）は、死体焼却
工程の細部を書き留め
た。「最初に火が付くの
は髪の毛である。皮膚は
火ぶくれを起こして盛り
上がり、数秒で裂ける。
すると腕や足が動き始め

「筆跡と手紙 ハイム
・ヘルマンとマルセル・
ナジャリ」（第五章）の
なかで最も鮮明に記憶に
残る証言をあげれば、自
分の妹が死んでいるもの
と思い、炉のなかに投げ
込んでしまった班員のこ
とである。彼女は「お兄
さん、私はまだ生きてい
るのに、私を、火炎のな
かに血を分けた兄が投げ
込んだ」と絶叫したとい
う。

「カメラの眼 ビルケ
ナウからの四枚の写真」
（第六章）が明らかにす
る写真の成り立ちを読む

本書を貴く問題意識
は、一方でホロコースト
否定論への根底的批判で
あり、他方で被害・加害
双方の生き証人のインテ

英国リーヴァーヒューム
財団賞を受賞。

★ドミニク・ウィリア
ムズIIリス大学ユダヤ
学科特別研究員。二十世
紀の英国ユダヤ文学やホ
ロコーストを研究。